



2-6 LAC 特別講座 生徒たちの感想（原文そのまま）

・日本の欠点について知ることができた。日本人のいいところとして捉えられるところでも弱点として考えられるなと思いました。日本の常識は世界の非常識という言葉聞いてそうだなと思いました。長時間労働など健康に被害を及ぼすことも美德とされているのはおかしいと思いました。

アフリカについて知る機会が多く興味が持てました。自分も難民とか弱者の人々に貢献できるような行動や人間になりたいなと思いました。

・今回の講義を通して、日本の良い部分、悪い部分について気づくことができました。最初は、日本人は謙虚で礼儀を重んじる風習があったり良い面ばかりだと正直思っていました。ですが礼儀を大切にするあまり、本当に助けを求める人のことを軽視したり、目上の人への意見を述べられなかったり少し生きにくい部分があるのかなと気づきました。(略) 海外のことを学び、国際基準を見つめ直すことで自分や身の回りの人を守ることに繋がるということ、日本の問題を改めて知るきっかけになるということを知りました。

・日本のいい所、良くない所について改めて学ぶことができました。「日本の常識は世界の非常識」という言葉がすごく印象に残っています。また、アフリカの実態や様々な国について学ぶことが多くありました。

・今日2時間の特別講座を受けて、印象に残った言葉が3つあった。1つ目は日本の常識は世界の非常識だという言葉。良かれと思ってやったことが海外では非常識なことだったらショックだから、この差は知っておきたいと思った。2つ目は、出世国ガチャという言葉。どこに生まれたから良い悪いというわけではないが、日本に生まれたことは本当に幸運なんだと改めて思った。3つ目は利他という言葉。他人を大事にしていると自分も大事にできると思うから、この言葉を忘れずに生活したい。

・今回の特別授業を通して、日本では当たり前、もしくは非常識だと思われることでも、海外ではそれが常識として受け入れられている場合があるということを知りました。自分は今まで、日本の考え方や価値観が基準になって物事を見てしまっていたと感じました。

また、国際的な視点で見ることで、国や地域によって置かれている状況や考え方が大きく違うことを知りました。普段の生活ではあまり意識することがないですが、世界全体で見ると、同じ「当たり前」が通用しない場面が多いのだと思いました。自分の価値観がすべてではないということ意識し、これからはニュースや世界の出来事を今までより広い視点で考えていきたいと思いました。

・日本に住んでいて当たり前のことが世界にとっては非常識になるということがとても驚きました。日本に住んでいるからこそ気づかない良さや、弱点その中でも痴漢という言葉が世界用語になっているほど問題視されていたことも知らなかったし、私たちが普段使っている携帯や、タブレットがコンゴ共和国の人たちのような人たちが奴隷のように働かされた資源によってできていることも初めて知りました。

・世界には様々な格差があり、個人と個人や、団体の間など形も異なるものがあることを学べた。日本の社会の中にも多くの格差があると思った。私は、ジャニーさんの性加害問題について、なぜ加害者が亡くなってからその問題が大ごとになって急にメディアなどが報道し始めたのか分からなかった。しかし、今回の話を聞いて告発したくてもできないような状況、仕方ないと思われている環境、告発したことにより自分の立場がなくなってしまうかもしれないなどと不安な面が多かったのかもしれないことに気付けた。

我慢すること、和を乱さないことが美德とされる日本を少しずつ変えていかないといけないと思った。私たちの当たり前は日本の中だけの話であって、世界の国々と同じとは限らない。日本の中だけで物事を見てしまうと、あらゆる問題に気付きにくくなるため、国際基準を知る必要があると思った。

日本や日本人にはたくさん良いところがある一方、改善しないといけないところもある。国際社会が進むにつれて、私たちはもっと世界のことを知り、比較し、異なる価値観や常識に触れていきたい。

・日本の魅力をあげるときは自分含めて沢山出たのに、次に弱点をあげるときは全然出てなくて、みんな悪いところや問題点からは目を逸らしていることを実感した。また例として避難所の劣悪な環境があげられていたが、自分は体験していないから気づけなかったのと、人々の助け合いなどいい面が書かれたニュース、記事しか読んでこなかったのも、社会の問題を他人事のように思っていることに気づいた。

